

新入生合宿 in 奈良

先日 5 月 17 日・18 日に今年度本大学の歴史学科に入学した新入生が毎年行われる新入生合宿研修として奈良県を訪れました。

1 日目に訪れた明日香村では飛鳥資料館や埋蔵文化財展示室、水落・石神遺跡などで考古・古代史を中心に話を聞きました。1 回生の松岡さんは「たくさんの資料館、遺跡などを訪れ、先生方や現地の方による詳細な解説を聞きくことができ大いに刺激されました。また『1m も掘ればそこはもう飛鳥時代』というロマンに溢れた一言がとても印象に残っています。」と話をしてくれました。

「雰囲気圧倒された」と 1 回生の足立さんが語ったのは天理教の教会本部。天理教は江戸末期に誕生し地域と宗教が一体化しながら、天理市は日本最大の宗教都市にまで発展しました。「おやさとかた」とよばれる巨大建築が周囲を囲む敷地には信者が伝統的に受け継いできた宗教空間が広がり、天理市特有の宗教性、歴史を感じることができる貴重な体験となりました。1 回生の中村さんは「地域全体が宗教と一体化しており大変新鮮だった」と感銘を受けていました。

2 日目には、江戸期には商業都市として栄え、現在は重要伝統的建造物群保存地区に選定されている今井町にも足を運び、当時の雰囲気が残る

町並みを散策しました。ここは「大和の金は今井に七分」とも言われるほどの繁栄ぶりであり、約 500 棟の伝統的建造物が建ち並んでいます。この町は現在も住民が暮らしており、住民の暮らしを守りつつ文化財を保存活用していくというあり方を考える機会となりました。

今回は博物館や資料館、藤原宮大極殿の発掘調査現場など、歴史学や文化遺産に携わる仕事の現場を間近で感じ、最前線で調査や研究を行う方々の話を聞くことができ、歴史学の生の雰囲気を味わえる研修となりました。また、1 回生の鈴木さんは「友達や先生と多くの話が出来て楽しかった」と学科内の友好を深めると共に、「将来どのような仕事をしたいのか悩んでいたのも、話を聞いてこんな仕事もいいな、と感じました」と将来について視野を広げていました。

(吉永健人)



新入生合宿の集合写真

阿部先生新刊記念インタビュー

西洋史の阿部拓児先生が2019年3月に『ペルシア史／インド史』（クテシアス）を翻訳刊行されました。そこで、著書の魅力やアピールポイントについてお聞きしました。



— 本を訳そうと思ったきっかけは？

この本を書いた著者が好きだからですね。多分似てるんだよね僕と。外国暮らしにストレスを感じず、見たものや聞いたことを楽しそうに話すところとか。この本にはユニコーンをハンティングする方法みたいにファンタジックな記述が多いから、クテシアスは嘘つきだと言われているんだけど、僕は本当のことを書いてると思っています。外国人が見る他国の宮廷ってこういう世界なんじゃないかなって。

— 本のアピールポイントを教えてください。

ロマンだよロマン。この本は2,500年前に書かれた。10世紀ころにはすでに原本は失われていたけど、色々な人が書きとめた断片からおぼろげな全体像が浮かび上がってくる。この世に存在しない本の内容がわかるってロマンチックじゃないですか。

この本の世界は中世ヨーロッパの説話から現代日本のRPGまで広く影響を与えているんですよ。だから、この本の世界に触れたことのある人は多いはず。

— 最後に読者に向けて一言お願いします。

この本は歴史学っていうことを考える上ですごく面白い史料なんですよ。この本は、多面的に史料について考えるいいお手本になると思います。

（聞き手：鈴木更紗）

デザイン研修 新入生歓迎遠足

4月21日、文化遺産デザイン研修メンバーによる新入生歓迎遠足が粟田口で行われました。当日は天候に恵まれ暑いくらいでした



遠足の風景（ねじりまんぼ）

が、新入生16名が参加してくれました。

地下鉄東西線蹴上駅を出発しインクライン、粟田口神社などに立ち寄りながら地下鉄東西線東山駅を目指しました。スポットごとにキーワードを設定しクロスワードを完成させるとテーマであった「クリエイト」の文字が。道中も上級生が新入生にスポットで触れることができなかったことについて詳しく説明をしていました。

この新入生歓迎遠足は、昨年12月15日に行われた京都学歴彩館寺子屋講座「京都の歴史を歩こう！粟田口編」での内容をもとに行われました。今年度も西陣を舞台に遠足を行いますので是非ご参加ください。

（富永有貴江）